

きらめき

プラス

Vol.50 師走

射即人生 平穩死

ゴディバジャパン代表取締役社長
ジェローム・シュシャン

特別養護老人ホーム 芦花ホーム 医師

石飛 幸三

北海道稚内市在住のご主人と一緒に漁業を営んでいる63歳の女性、お母様をご自宅で見取られた方からのご質問です。

質問

先生の『在宅医療は健幸医療』、毎回楽しく読ませていただいております。私事ですが、2ヶ月前に母が他界し10年間の介護生活が終わりました。いろいろ後悔もありますが、母の安らかな微笑みと周りの人たちの励ましの言葉が唯一の救いでした。今、主人(64歳になります)と二人で近くの介護で悩んでいる方たちの為に、先生が以前お話しされていた丸尾さんの「つどい場さくらちゃん」のような交流の場を自宅で作ろうかと考えています。一緒にお茶を飲んだり愚痴を聞いたりするくらいしか出来ないと思います。母も喜んでくれると思います。交流の場をつくるにあたり、何かアドバイスなどいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長
長尾クリニック・院長



お答えします

「つどい場」に興味を持って頂き、ありがとうございます。つどい場とは兵庫県西宮市のNPO法人つどい場さくらちゃん丸尾多重子さんの造語です。私もその理事を拝命しております。世の中には「カフェ」や「サロン」や「〇〇の家」とか様々な呼び名の場がありますが、まずは「つどい場」とどう違うのかからお話ししましょう。

なぜ「つどい場」なのか

「つどい場」とは、認知症の介護をする側もされる側も一緒に集まりお茶だけでなく食事をする場です。つどい場は食事や時間帯によってはお酒も飲みます。食事内容にウエイトを置いているのがつどい場です。というのも介護者は残りものを食べることで多く栄養不足になり体調を崩します。また認知症本人は認知機能がかなり低下して食欲が無くなったように見えても本当に美味しいものは食べます。だからバランスが取れて美味しい食事がなにより大切だということです。

つどい場は腹の見える関係を築く場所

つどい場には、介護者以外に医療職、介護職、ケアマネ、行政、教職員、学生、宗教者、外国人、ボランティアなど様々な人が集まり本音で自由に語りあう場です。カフェがお茶を飲みながら「顔の見える関係」を構築する場であるならば、つどい場は食事や酒を飲みながら「腹の見える関係」を築く場所です。丸尾さんの口癖は「情報とは、〇〇だけを集めてはダメ」です。たとえば、認知症ケアの知識を得る場はえてして介護者だけ、医療者だけ、ケアマネだけとなりがちです。しかしそうではなく、いろんな人がまじることが大切であると丸尾さんは説いています。

実は「まじくる」も丸尾さんの造語で、「ごちゃ混ぜになる」、あるいは「交わって狂う」「マジで狂う」という意味です。医療者や介護者や行政はややもすると「上から目線」になりがちです。しかしこれからの

時代、それではうまく事が運びません。みんなが対等な立場、フラットな関係性になつてはじめて認知症になつても住み慣れた町で暮らせることができるという想いが込められている言葉が「まじくる」なのです。利用料は1回500円。介護保険事業とは一切無縁ですから、もちろん食事だけでも大赤字です。

「お出かけ隊」「学び隊」「見守り隊」といふ3つの機能、

つどい場には、3つの機能があります。「お出かけ隊」「学び隊」「見守り隊」です。単につどい場だけでなく、こうした機能を持つことも大切です。「お出かけ隊」とは文字通りスタッフやボランティアによる外出支援です。要介護になると多くの介護者は外出を控えたり諦めてしまいます。しかしつどい場のメンバーはよくお出かけを支援

しています。外出や外食が認知症を改善することをメンバー全員が身をもってよく知っているからです。だから要介護5の人たちを連れて毎年北海道や沖縄、そしてこの2年間は台湾まで団体で旅行しています。旅行先で美味しいご飯をたべて賑やかな雰囲気になると、認知症の人は生き生きしてきます。難しいことは分からなくなつても今が楽しい、美味しいは誰よりもよく分かっているのです。最近は航空会社も協力的だし車椅子のまま乗れるリフト付き観光バスもあります。実は台湾にもあります。

よく「要介護5なのになぜ旅行なのか?」と聞かれますが、丸尾さんにしてみれば「要介護5だからこそ旅行!」なのです。そもそも人間の尊厳とは、食べること、排泄すること、そして移動することです。移動することは動物の尊厳そのものですが、理解されずにややもすると建物の中に「閉じ込め」がちです。しかし要介護者が街中を車椅子を使ってでも普通に移動することで、本人だけでなく街の人たちの意識もガラッと変わるのです。街も自然と認知症仕様になつていきますが、そうした発信も「つど

い場」側からすべきです。

次に「学び隊」です。おしゃべりや旅行に加えて賢い介護者にならないといけません。そのためには定期的に本物の(?)講師を招いて勉強会を開催しています。有料講演会ですが、わずかながらもお金があれば、それが運営資金になります。つどい場は介護保険事業は一切していませんので、運営資金が一番頭の痛いところです。そんな中、唯一の有料事業とも言えるのが「学び隊」になります。もしかしたら一番たいへんなのは資金面かもしれません。そのためには、医療法人や社会福祉法人などとも上手に関係性を構築すべきでしょう。現実には医療無しでは介護認定すら受けられませんから。そして「見守り隊」は介護者にちよつど用事ができてちよつと都合が悪くなった時に、「つどい場」の仲間の誰かが付き添う有償ボランティアです。

各地で増えてくる つどい場、でも「まじくつて」

丸尾多重子さんの活動に触発された人たちが全国各地で「つどい場」を続々と開設し

ています。「一緒にお茶を飲んだり愚痴を聞いたりするぐらいしか出来ない」と謙遜されていますが、現代においてそれができる場がいったいどれくらいあるのでしょうか？ 介護者は経験者に相談するだけでなく、誰かに聞いて欲しいのです。そして時には「泣ける場」も必要なのです。私だつて誰かに聞いて欲しいことが沢山あるのです

が、なかなか吐き出せる場がないので日々のブログやこつした連載で想いを吐き出しているのです。そして吐き出したあとは、いろんなへんな人としつかり「まじくつて」下さい。これからは「へん」な人の時代です。やがてそれが地域の力になります。

「つどい場」の増殖は私にとつてもとても嬉しいことです。全国各地に増えているつどい場の主宰者が集まつて「まじくるフェスタ」なんて催しもやっているそうです。丸尾さんの「つどい場」も普通の小さな軒家を借りて運営していますが、どこも小規模です。10人も入れれば満員御礼のような小さな「場」であっても、本音を言えて愚痴をこぼせる場であり、なおかつ食事や酒が旨いとなれば必ず地域の人々に必要とされる

場になるでしょう。仕事をしながら週末だけ、自宅のガレージを改装して「つどい場」をやっている人もいます。

「つどい場さくらちゃん」ではこの10年間、毎年1回、「かいご楽快」という大規模なイベントを開催しています。か「介護、い」医療、ご「ご近所さんが三位一体となることを目指すイベントには全国各地からいろんな人たちが来られて「まじくつて」おられます。来年1月9日(祝)に西宮文化会館アミティホールで開催されます。出演者は、三好春樹氏、鳥海房枝氏、中矢暁美氏、上田諭氏などたいへん豪華です。この組み合わせは全国どこにもありません。全国で「つどい場」をやっている人もたくさん来阪されます。もちろん私も歌つたり踊つたり、話したり、だと思えます。懇親会も充実していますが、人気が高いので事前申し込みが必要です。もしご都合がつけば是非関西に遊びに来て下さい。詳しくは「つどい場さくらちゃん」のホームページをご覧ください。

NPO法人つどい場「さくらちゃん」
<http://www.tsudoiba-sakurachan.com/>

小林 大輔の
ほのぼの日記

行雲流水



大学のミス・コン

慶應大学の学園祭イベント「ミス慶應コンテスト」が、主宰する「広告学研究会」の不祥事が重なつて今年から無くなつたそうです。

大学のミス・コンは、今やアナウンサーや芸能界の登竜門になっていて、各局とも「ミス・キャンパス」出身の女子アナは少なくないと言います。局アナばかりでなく、今や企業は、各大学が行うミス・コンテストの入賞者なら、引く手あまただと言うのです。

しかし、ミス・コンを行わない学校もあります。そのひとつが我が早稲田大学です。

この事実を「ニュース」を読んでではじめて知ったのですが、私は母校のこの傾向を「さすが我が母校！」と心から歓迎いたしました。